

地域再生計画（道整備 交付金）中間評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	愛知県、愛西市、弥富市	地域再生計画名	(1307) 自然と都市が調和する心豊かに暮らせるまちづくり計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	愛知県海部農林水産事務局長、愛西市産業建設部長、弥富市開発部長		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価		
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	歩道設置、道路拡幅及び交差点改良による歩行者・自動車共に安全に通行できる道づくりの促進	3箇所	H26	2箇所	H29	3箇所	0箇所	H31	△	中間目標では、弥富市道の危険箇所を1箇所減らすこととしていた。しかし、弥富市道の危険箇所2箇所は、安全対策上、同時施工が必要となるため、中間目標年度（H29）の時点で危険解消箇所は「0箇所」となるが、2箇所ともに事業は順調に進めており、計画より1年早い今年度（H30）に完了する予定で、目標の実現状況としては妥当と判断できる。愛西市道としては、平成29年度より工事に着手しており、用地交渉の難航により遅れがあるが、H31までに危険箇所1箇所を解消できる見込み。	
	指標2	老朽化道路の維持修繕促進	0.0%	H26	50.0%	H29	0.0%	100.0%	H31	△	弥富市としては、安全対策上2箇所の同時施工が必要となる上記危険箇所解消工事を先行して完了させ、老朽箇所の補修工事については事業実施年度を最終年度（H31）の1年で実施することとした。また、現道の舗装補修工事であり、工期をあまり要しないため、最終年度の単年度で完了できる予定。	
	指標3	広域農道の整備による農産物輸送効率の向上	16分	H26	16分	H29	16分	11分	H31	○	地元や関係機関との調整や現場条件による問題から、工期のH33までの延伸及び事業費増高の必要がある。工期の延長により本計画内で確実に完了させることで、計画目標である農産物の輸送効率の向上が達成されるだけでなく、地域の活性化、利便性の向上等も図られる。	
	指標4	担い手農地集積数	420ha	H26	435ha	H29	630ha	450ha	H31	○	広範囲のほ場を取り扱う農事組合法人があることから、農地の集積がかなり進んでいる。	
	指標5	交流人口の拡大	850千人	H26	930千人	H29	893千人	971千人	H31	△	基準年度において、来客者数は弥富市60万人愛西市は25万人である。来客者数の伸びは鈍化しているが、毎月道の駅が中心となり、イベントを企画、実行して集客増大を図っている。道の駅に隣接する森川花はす田では連見の会が開催され、H27年には約3万人が訪れた。また、鶴戸川・三叉池魚釣り大会も行われている。このように、広域農道周辺ではイベントが行われるようになっており、地域交流の一翼を担っている。	
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	—	農産物集出荷施設の最適化	—	—	—	—	1箇所	—	—	1箇所	—	農道等が整備されることにより、集出荷施設の集約化、特化が進められるようになり、「れんこんセンター」「いちごセンター」など、特産物の特性に対応し、かつ非営農者にも宣伝効果のある施設が築造されている。
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間年度（H29）	最終実績							
特別措置を適用して行う事業	市町村道事業		1.5km	0.3km		弥富市道の危険箇所2箇所は、現場条件によりこの2箇所にある交差点改良を同時に行い、一括して道路の切替えを行い2箇所同時に解消する予定。いずれも事業の進捗状況としては順調で、計画より1年早い今年度（H30）に完了する予定。また、弥富市道の老朽化対策については、危険箇所解消工事完了後の最終年度（H31）の1年で実施する予定。この老朽化対策は、現道の舗装修繕工事であり、工期をあまり要しないため最終年度の単年度で完了できる見込み。愛西市道の危険箇所1箇所は、平成29年度より工事に着手し、用地交渉の難航により遅れがあるが、最終年度には完了する見込みである。						
	広域農道事業		1.3km	1.3km一部		本計画に位置づけられている2区間について、農道の路盤を施工中である。道路地盤支持力の確認の結果、地盤改良等が必要となったことなどから、事業費が増加している。また、橋梁設置にかかる周辺住民との調整及び関係機関との協議が難航したことで、橋梁の完了に2年の事業期間の延長が必要である。本2区間1.3kmの開通により広域農道の全線16.8kmが完成し、輸送時間の短縮や利便性の向上が図られる。						
その他の事業	佐屋中部地区地域用水環境整備事業	ゲノタ幹線水路の管理道整備と水辺散策空間の整備	整備の進捗に若干遅れはあるが、順次整備中であり、平成32年度までに完了する見込み。本事業により、排水路及び周辺農地の保全管理の充実や地域住民の憩いの場の創出に寄与している									
	名古屋港鍋田ふ頭地区整備事業	岸壁、泊地、航路及び連絡道路の整備	岸壁、泊地、連絡道路については完了済。航路の整備についてはH34年度までに完了予定。本事業により、増加するコンテナ貨物に対する既存施設の能力不足を解消するとともに、海上及び陸上交通の物流効率化を図り、地域経済の発展に寄与している。									
	五右地区ほ場整備事業	長らく未整備であった農地の区画整理を行うもの。	若干の遅れはあるものの、平成30年度は確定測量を行っており、平成31年度を目途に完了予定。ほ場整備や周辺地域の整備を一体的に行うことで、営農の効率化や地域の生活環境の向上に寄与する。									
	単独土地改良事業	市町村、土地改良区等が申請し、愛知県が補助する農業農村整備事業	県営事業や国営事業で採択されない小規模で単年度完了の事業であるが、積極的に活用することにより、営農の効率化や農業用施設の適切な維持管理等に寄与している。									
	多面的機能支払交付金	地域が共同活動する際に農業農村が持つ多面的機能を活用する際にかかる費用を交付する事業	農地、水路、農道等の適切な保全管理のために地域住民が共同で行う草刈り、水路の泥あげ、農道の補修や、農村の環境を保全するための植栽や生き物調査といった活動に対し支援を行うことで、営農環境や農村の生活環境の維持・向上が図られている。									
計画外で独自に実施した事業	鶴戸川・三叉池釣り大会	生態系、農業用施設の理解を深めるイベント	農道や農地、農業施設の実存意義、農業用施設がはぐくむ生態系への理解を深めてもらうことを目的とし、一般市民を対象に、広域農道に隣接する農業用排水路等で釣り大会を開催した。平成29年度の鶴戸川釣り大会では105人が参加した。このようなイベントの実施により、農村地域の活性化にも寄与している。									
④評価方法	「自然と都市が調和する心豊かに暮らせるまちづくり計画」中間評価委員会を開催し、中間目標の実現状況に関する評価・検討を行った。											
⑤事後評価の公表方法	愛知県、愛西市及び弥富市のホームページ等で公表。	第三者の意見	地域再生に貢献できる重要な事業として評価される。大きな事業効果が期待できるため、早期の事業完了を目指して努力してほしい。（岐阜大学 千家教授） 農地の利用集積が進んだことに代表されるように、広域農道整備などのハード対策だけでなく、ソフト対策と連携して行うことが農業を振興する上で重要であるので、両者の連携を図りながら、事業効果を高めてもらいたい。（（一社）地域問題研究所 加藤調査研究部長）									
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画は、地域の活性化を図るため、道整備交付金を活用し広域農道と市道の一体的な整備を効率的に行うものであるが、中間評価時点においては、地元交渉の難航等により目標が達成できていない事業もある。しかしながら、市道の改良により地域住民の安全かつスムーズな交通が確保され、広域農道の完成により、農業者だけでなく地域住民の利便性が向上することから、各事業を継続し完了させることが必要であり、また本計画の期間を2年延長することについては事業効果の地域への波及が顕著であるためやむを得ない。											
⑦今後の方針等	今後、地域再生計画の変更（計画期間を平成33年度まで延期、事業費の増）を行う予定。平成33年度の完了に向けて各事業の着実な進捗を図り、計画の最終目標の達成及び事業効果の早期発現を目指す。											